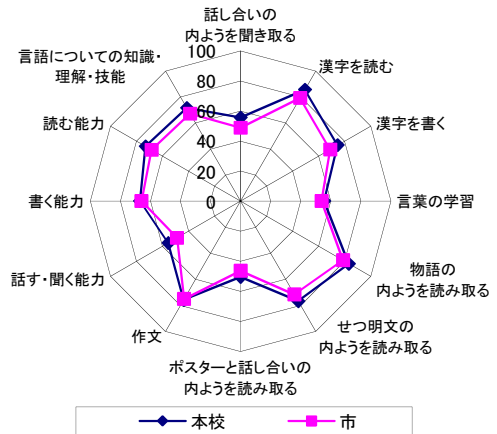


宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	55.6	48.8
	漢字を読む	85.6	79.3
	漢字を書く	74.6	68.8
	言葉の学習	55.5	53.8
	物語の内ようを読み取る	83.2	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	76.8	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	50.4	46.3
観点別	作文	75.8	75.1
	話す・聞く能力	55.6	48.8
	書く能力	67.0	65.9
	読む能力	73.1	68.4
	言語についての知識・理解・技能	71.6	67.2



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	○平均正答率は55.6%で、市の平均の48.8%に比べ上回っている。特に、話の中心を聞き取る問題の正答率が高かった。	○学校生活の中で話を聞く場面はたくさんあるので、話を聞くときは話し手を見て注意深く聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたりすることを引き続き意識させていく。目と耳と心で聞く心構えを持たせ、日常の言語環境を整えていく。
漢字	○漢字を読む問題の平均正答率は85.6%で、市の平均79.3%を上回っている。3学年も4学年配当漢字もよく読めていた。 ○漢字を書く問題の平均正答率は74.6%で、市の平均の68.8%を上回っている。市全体の平均よりも10%以上上回った問題もある。	○漢字の意味を理解させるとともに、送り仮名や訓読み、その漢字を使った多くの熟語に触れさせ、幅広い用法を身に付けさせていくことが大切と思われる。漢字スキルの学習を中心に、日常生活の中で積極的に漢字を使うよう指導していく。
言葉の学習	○平均正答率は、市の平均を1.7%上回っている。文の構成(連体修飾語)についての問題の平均正答率はやや低かったが、漢字辞典の使い方についての問題の平均正答率は高かった。	○話す・聞く・読む・書くのそれぞれの活動において、主語や述語・修飾語の関係を意識させることで、内容を正しく把握させたり、筋道を立てた文を作らせたりしていく。
物語の内ようを読み取る	○平均正答率は83.2%で、市の平均を4.5%上回っている。登場人物の気持ちを読み取る問題の正答率が高かった。	○読書を奨励し、様々なジャンルの本に親しませていきたい。物語では、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正しくとらえさせるためのヒントとなる言葉を意識し指導していく。特に中心人物や中心場面を押さえていく。
せつ明文の内ようを読み取る	○平均正答率は76.8%で、市の平均を5.2%上回っている。文と文のつながりに注意して文章を読み取る問題の正答率は高かったが、目的や必要に応じて文章の内容を読み取る問題の正答率は低かった。	○段落ごとの内容に見出しをつけてまとめるなどして要旨を理解させる。また、段落と段落の関係を図に表すなどして説明文全体の構成をとらえさせる。説明文のしくみに気付かせ、筆者が何を伝えたいのかを考えることが大切である。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	○平均正答率は、市の平均を4.1%上回っているが、他の内容の問題に比べると、本校も市の平均も低い。資料を読み取って、適切な言葉を使って文を書き直す問題が難しかったようだ。	○時と場に応じて適切な言葉を選んで話すことは、今後も益々重要になっていく。聞くときは聞こえた言葉を都合よく大まかな意味で捉えるのではなく、注意深く聞き正確に理解するような指導を学校生活の中で意識させていく。話すときは相手に伝わるような話し方を考え、言葉を選ぶことを意識させていく。
作文	○平均正答率は75.8%で、ほぼ市の平均と言える。自分の考えを書く際に注意する点が4点あったが、それらに気を付けて文章を書くことは難しいようである。	○国語の時間に限らず、他の教科や言葉の時間などにも文章を書く機会を設け、文章を書くことの楽しさを味わわせ抵抗感を減らしていく。条件に合う文章を書いたり、依頼やお礼の文など様々な文章を書いたりすることで、相手意識や目的意識をもった文章に慣れさせていく。